

2025/2/28 (金)

朝の礼拝

聖書 申命記 30章 11-14節 (旧約聖書 314頁)

私が今日命じるこの戒めは、あなたにとって難しいものではなく、遠いものでもない。それは天にあるものではないから、「誰かが私たちのために天に昇ってそれを取って来てくれるなら、私たちはそれを聞いて行うことができるのだが」と言うには及ばない。また、それは海のかなたにあるものではないから、「誰が私たちのために海のかなたに渡り、それを取って来てくれるのだろうか。そうすれば、私たちはそれを聞いて行うことができるのだが」と言うには及ばない。その言葉はあなたのすぐ近くにあり、あなたの口に、あなたの心にあるので、あなたはそれを行うことができる。

すぐ近くに

コヘレトは「神の行った業を人は・・・見極めることはできない」と、パウロは「誰が主の思いを知っていたであろうか」と言っています。そして約束の地に入植し王国を築いた民は、まさか大国に侵略され、遠い異国へ捕らわれるとは想像もしていませんでした。

土地も家も財産も、さらに家族まで、すべてを失った彼らに残されたのは主の戒めでした。それは赦しであり、永遠に共にいるという約束でした。それが救い主イエス・キリストが来られ、最も小さい者の側におられたことで実現したのです。

今日の聖書の最後には「その言葉はあなたのすぐ近くにあり、あなたの口に、あなたの心にあるので、あなたはそれを行うことができる。」とありました。同じ頃、エレミヤも「私の律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心に書き記す。」と語り、またパウロも同じ箇所を引用しています。

そしてパウロは「私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるのだ」「私は、弱い時にこそ強い」とさえ言っています。わたしたちが困難にある時ほど、主なる神は遠くにおられるのではなく、すぐ近くにおられるのです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたはあなたの戒めを天に昇って探さなくていい、海のかなたまで渡って探さなくてもいい、そしてわたしたちの口、心のうちにいてくださると言われました。どうかあなたに赦され、生かされ、あなたを愛し、互いに愛し合う喜びと感謝に与らせてください。今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン